

# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 東郷 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ  
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

#### (2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

※ 本校の2年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

#### 全国・本市の実技調査の結果

##### <男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	28.95	26.09	45.12	51.64	409.25	78.82	8.00	197.51	20.74	42.2
本市	29.68	26.06	46.16	52.78	410.16	81.09	7.88	199.92	20.42	43.36

##### <女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.70	46.99	45.74	309.66	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58
本市	23.73	21.88	47.43	46.70	309.06	52.42	8.84	170.22	12.10	49.03

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

#### 質問調査の結果分析

【生活習慣】睡眠時間7時間未満の生徒が男子で約4割、女子で約7割である。またスクリーンタイムについて、3時間以上の生徒が男子で8割を越え、女子でも5割を越えている。

【情意面】運動やスポーツに関する興味・関心は全国と同程度であるが、運動やスポーツを支えることに関する興味等は男女とも全国に比して小さく、特に男子で顕著である。また運動やスポーツを通じて様々な人が集まって交流したり、つながりや一体感を感じたりすることについては、女子において全国に比して顕著に小さくなっている。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

男子では保健体育の授業について楽しいと感じているが、女子については一定数そう感じていない生徒がいることから、体育教員を中心に前期は女子がそう感じる原因分析を行い、後期には手立てを考え実践する。また、ICTについて生徒が主体となって使えるように工夫し、生徒自身が学習を調整できるよう支援していく授業を構築する。睡眠時間やスクリーンタイムについては保健分野だけではなく、特別活動の時間、道徳などを活用して、望ましい生活習慣の確立に関する指導を全教員で進めていく。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

本調査結果で特に顕著な、睡眠時間とスクリーンタイムへの保護者の関心を高めるため、調査結果を養護教諭から保健通信を活用してお知らせする。また特別活動等で指導した内容は学級通信等で家庭にもお知らせし、家庭と学校との連携を図る。